

第7回兵庫県防災会議地震対策計画専門委員会の概要

- 1 日時：平成23年9月16日（金）13:00～14:45
- 2 場所：兵庫県災害対策センター 災害対策本部室
- 3 出席者：室崎委員長、沖村委員、川崎委員、鋤田委員、梶原委員、宇田川委員、北村委員

(1) 東日本大震災を踏まえた地震被害想定結果の検証

鋤田委員、北村委員による発表

(2) 東日本大震災を踏まえた津波避難対策

○津波防災対策について

<主な委員意見>

- ・何十万人の人が一斉に避難することを考慮すると、マイナスの方が大きい場合も考えられるので、現実的に、海拔0m地帯は絶対に逃げないといけないとか範囲を限定しパニックが起こらないようにする必要がある。
- ・「最悪の場合を想定しないといけない」と、「あまりやり過ぎるとパニックになる」という2つの意見があり、域外に全部逃がすのか、避難ビルへすべて避難させるのか、時間があるので避難対象地域の人をバスで域外にピストン輸送するのか等、現実的な対策を今後考えていかなければならない。
- ・パニックを招かないように、こうすれば命が守れるというような対策を打ち出ししていく必要がある。
- ・実際地震が起こった場合、(学校では)子供たちは建物から外へ避難することになっているが、津波が押し寄せた場合は建物中に避難することになると、誰が建物の安全性を判断するのか、細かいルール作りが必要となる。
- ・1983年の日本海中部地震が過去最大で、日本海側については活動履歴のある断層はなく、大規模な津波が発生する可能性は低いが、あまり油断しない方がいい。
- ・仙台周辺では津波被害を受け、漂流物による沿岸部火災が多かったが、それらの対策も今後、津波対策に盛り込んでいく必要がある。

○津波対応マニュアル

- ・津波注意報や警報等は市町ごとに住民伝達対応することになっているが、エリアメールの活用など国の方で一括して通信事業者などに働きかけてもらおうとよい。
- ・災害時要援護者支援は、今のシミュレーションだと神戸までの到達には時間があるので、支援者まで一緒に津波被害にあう可能性はないということも明記して議論していく必要がある。
- ・すぐ逃げなさいと言うから慌てるので、大津波は、何分後に来るということをきちんと伝える必要がある。
- ・要援護者の避難に行っていたら間に合わないという議論よりは、早めの避難が重要であるので、各地域できちんと避難誘導計画を作ってもらい、それに基づいて行動する必要がある。
- ・地域(防災)コミュニティをどうしていくかという姿勢もなくてはならない。
- ・地域コミュニティが自ら津波避難計画を作ることも必要。
- ・津波避難ビルは、3階や4階に逃げさえすればいいという訳ではない。津波避難ビルは袋小路になる可能性があるという欠点がある。最上階にライフジャケットを置いておくなど、リスク軽減される発想も大事。
- ・神戸は2時間ぐらい余裕があると言われているが、真夜中に津波が来たとすれば、実は時間がないことの検討はしておく必要がある。

(以上)